

ワーカーズ

号外 2010. 5. 1

TEL/FAX 04-7140-7633

メール workers@workers-net.org

民主党政権に依存することなく、自らの闘いで状況を切り開こう！

個別企業・雇用形態の壁を乗り越えて総反乱へ！

メーデーにあたって訴えます

祝メーデー

■今こそ総反乱を

市場・利潤万能社会がつくりだし拡大する一方の「格差社会」で労働者・勤労者は、ズタズタにされている。『ワーキングプア』に象徴される現状に異議申し立てする反乱が、いまあちこちで始まった。

昨年八月総選挙での自民党等の大敗北と民主党の大躍進は、労働者・勤労者の怒りで勝ち取られたものである。

しかしながら民主党政権への期待は急速にしぼみつつある。あまりにも民主党のやることなすことはちぐはぐである。期待

■「格差社会」は弱肉強食の市場原理が生み出した

ますます集中化する大都市と衰退する地方、多国籍企業を中心とした大企業と系列・下請けを含む中小・零細企業、利益をため込む企業と雇用・賃金・労働時間で日々劣悪化する境遇の労働者、ごく一部のエリート労働者と圧倒的多数の不安定雇用と長時間労働の企業戦士への二極化、激増した明日をもしれない非正規雇用と馬車馬以上の働きを強要される長時間労働の正

された労働者派遣法の改正も中途半端なのである。

この10年のあいだに進行した理不尽な「格差社会」に対する帰結として、労働者・勤労者は労働組合を結成する等、草の根からの反乱が澎湃としてわき起こっている。

沖縄の普天間基地移設の結論が五月末に予定されている。すべての労働者・勤労者は民主党の裏切りを許さないだけでなく、彼らに依存する事なく、自らの闘いによってこの困難な状況を切り開いていかなければならない。

私たちこそ時代を切り開くことができる唯一の勢力である。

規労働者……。 「格差社会」はますます二極化へ向かっている。

しかしこれは自然現象ではなく人災である。利潤万能の市場原理とそれを推し進める経営側に責任の一切がある。何より大切なのは労働者・勤労者の立場に立った対策である。

「生活が第一」の民主党も、支持母体である連合も、労働者・勤労者の立場にない。私たちは民主党や連合に労働者・勤労者の立場に立った各種の政策の実施を要求する。

出版物のご案内

『アソシエーション革命宣言』

—協同社会の理論と展望—

★協同組合の連合社会

—アソシエーション革命のリアリズム—飯嶋 廣

★われわれはどこから来てどこへ行くのか？

—協同社会の史的展開—阿部文明

★協同社会の所有と共同占有—清野 真一

発行 社会評論社

発行日 3月15日

243p/21cm/A5判

定価 2300円

(税込み2415円)

本書はワーカーズでも取り扱っています。

申し込み

電話 090-7416-1314

メール qzd12027@nifty.ne.jp

(本書は、全国の書店やネット書店でもお求めになれます。)

■ 際限がない経営側の利潤至上主義

「平成」不況下で進行する「格差社会」の直接の発端は、日経連の「雇用形態の三類型化」、そしてこれに呼応した政府の派遣労働の解禁・緩和だった。「労働ビツクバン」を掲げる経営側による利潤万能主義はこれにとどまっていた。08年の4月に施行された労働契約法は、経営主導による労使関係再編の第三弾だった。

それは、労働協約と労働組合の骨抜きをねらった就業規則至上主義、それに経営側の悩みの種になってきた労使紛争の封じ込め政策に他ならない。こうして労働者・勤労者の反撃は不可避となった。生きるためには闘っていかねばならないからだ。だからこそ、民主党の政権交代に大きな

期待が寄せられたのである。しかしこの期待も急速にしばみつつある。しかし大切なことは彼らに期待するのではなく、自ら闘うことである。年収二百万円に満たない一千万人の労働者・勤労者の力を組織する事なのである。



【ワーカーズ】のホームページを見よう
<http://www.workers-2001.org>

■ “日本の新自由主義” は破綻した

思い起こせば90年代以降、日本の企業や財界はグローバル経済のもとでの対外競争力の強化を錦の御旗にリストラを強行してきた。ところが現実には90年代以降、日本企業の競争力は高まるどころか低迷から抜け出せないでいる。

たとえば社会経済生産性本部の調査では日本は経済協力開発機構(OECD)加盟

30カ国の19位で、主要先進7カ国では11年連続で最下位でしかない。成果主義処遇も「職場力の崩壊」というしつぱ返しを受け、いままた集団主義への復帰の模索を余儀なくされている。こうした状況は、形を変えた労働者の反乱である。しかし今求められているのは消極的な抵抗ではなく、彼らを追い詰める積極的な闘いである。まさに総反乱を開始していかなければならないのである。

■ “生きさせろ” “私たちは人間だ” が時代の旗印!

非正規労働者自身による、生存ラインぎりぎりからの“生きさせろ” “私たちは人間だ” の叫びから始まる反乱や “過労死と隣り合わせ” の正規労働者による長時間労働を拒絶する反撃。こうした資本家たちの身勝手な人件費抑制への不服従の闘いを始めていこうではないか。

すべては自らの目前で行われる現状を労働者・勤労者の立場から告発する決起から

始まるのである。民主党政権に期待するのではなく、自らの力を自覚し、多様な反乱を一つの力にまとめ上げ、労働者・勤労者の共通の闘いとして、すなわち個別企業や雇用形態の壁を越えた“均等待遇”を実現する闘いを掲げることだ。未来は闘う労働者のものだ。すべての労働者は、個別企業や雇用形態の壁を越えて協力し、共通の目的に向けて決起しよう!

5月1日



メーデー